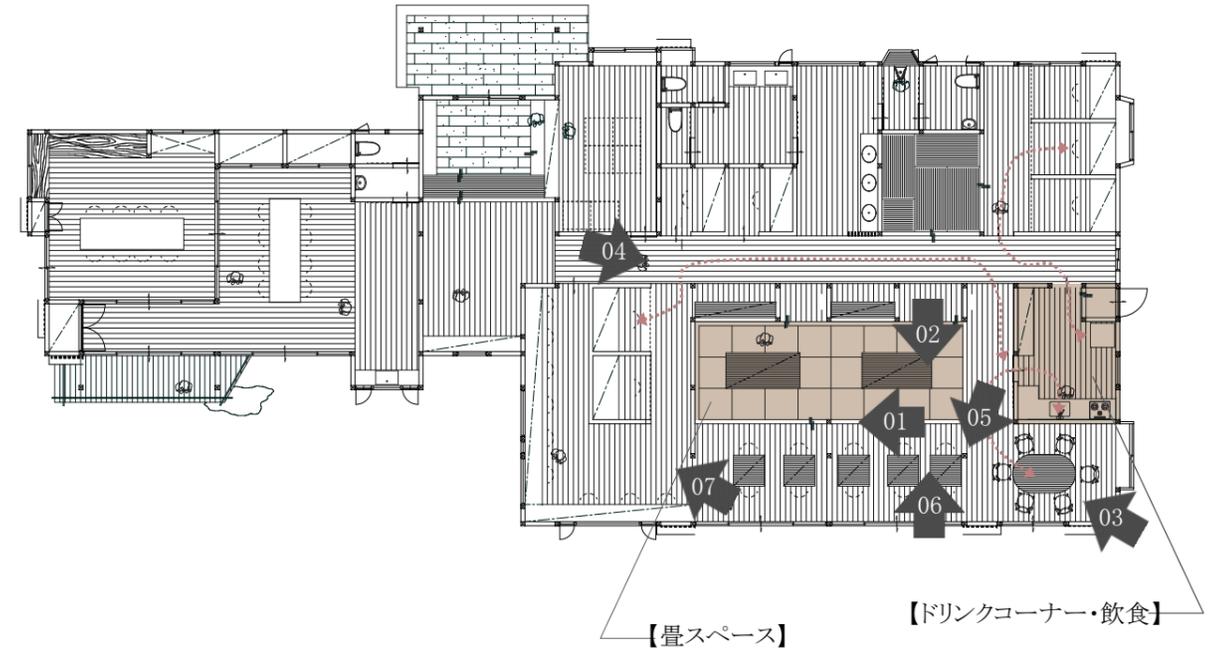




coworking space

image01

【テーブルスペース・畳スペース】木造御屋敷ならではの coworking space



【畳スペース】

【ドリンクコーナー・飲食】



image02

【畳スペース】堀こたつから庭園を見る。ロールスクリーンを開け、開放的に。



image03

【ドリンクコーナー・軽食】飲み物のサーバーと、料理を提供する。利用者が自分でお皿について頂く。



image04

【中廊下】ベンチスペース。木造の柱と筋交が空間を緩やかに繋げる。



image05

【テーブルスペース】5テーブル、10名定員。庭園を眺めて、飲食しながら作業可能。



image06

【畳スペース】約6名定員。FL+400の小上がり。ロールスクリーンで空間を区切ることも。



image07

【フリースペース】カウンター約10名定員。庭園を眺めながらの作業や、半個室で集中も可能。



meeting space

image08

【オープン打合せ室・縁側】縁側のある落ち着いた打合せスペース。襖を開け一体として大広間とすることも。

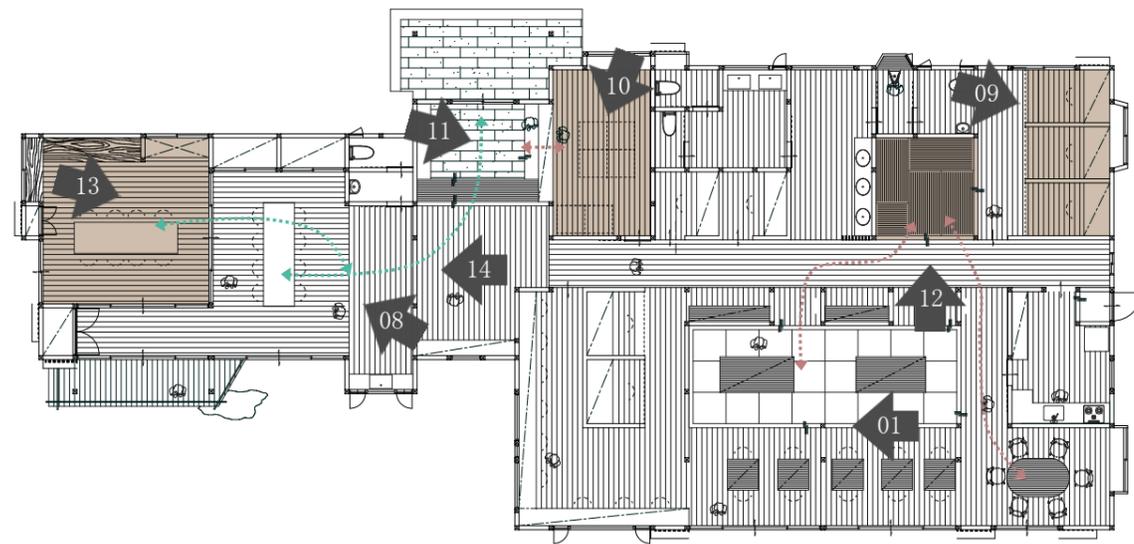


image09

【個室ブース室】防音仕様の個室。ロールスクリーンを閉めZOOM会議などが可能。



image10

【受付】コワーキングスペース利用者の受付を行う。可動の家具を置くことで事務所としても利用



image11

【玄関】受付、ホールを見る。庭園を見通し、飾り棚を設ける。



image12

【休憩スペース】FL+200の小上がり畳スペース。仕事合間の休憩に。



image13

【商談スペース】襖を閉め、商談のスペースとして利用。開ける事で打合せスペースにも。



image14

【ホール】ホールから打合せ室側を見る。広々とした空間で打合せ室可能。



【デザインコンセプト】

内壁は、基本スケルトンとする。柱・筋交残し。なるべく間仕切ることのないオープンなスペースとする間仕切り壁はH=1700mmとし上部はオープンとすることで、空間を繋げる。水廻り以外はオープンな空間とし、天井は既存利用。塗装仕上げ

広い御屋敷の雰囲気を残し、内壁をなくすことにより開放的な空間とする。木造も柱と筋交が小さな区切りとなり、そこにワークスペースが生まれる。畳をFL+400で小上がりとして設け、空間に区切りを付ける。近くに人のいる雰囲気を感じる事が出来るが、様々な空間の区切りにより木造御屋敷ならではのワーキングスペースとなる。そして何よりリラックスする事が出来るのは、庭園がある事である。

(仮称)藤絹高麗町カフェ 改修工事